

令和7年度 特別委員会の活動評価について

1 チェックシートによる評価と委員会活動評価総括表の作成

- (1) チェックシートの項目を参考に、これまでの委員会活動を振り返り、良かった点、改善すべき点等を委員間討議する。
- (2) 委員間討議の後、正副委員長、各委員がそれぞれチェックシートに評点等を記載して提出する。
- (3) 上記の議論と、チェックシートによる評価結果を踏まえて協議を行い、「委員会活動評価総括表」を作成する。

2 委員長会議での報告及び確認

令和8年3月23日（月）委員長会議

各委員長から、「委員会活動 評価総括表」により、これまでの委員会活動の評価を報告するとともに委員長間で共有すべき取組等を確認し、次期委員会等への引継ぎ事項を整理する。

※ 委員長会議前に特別委員会が廃止された場合、「①委員長に対し、出席と報告を求める」又は「②議長から報告していただくよう委員長から依頼する」こととする。

※ 委員長会議開催後に委員会を開催した場合には、「委員会活動 評価総括表」への補足の有無・内容について、当該委員会（理事会）において協議し、補足後の「委員会活動 評価総括表」を委員長から議長に提出する。

3 代表者会議への報告

5月（予定） 代表者会議

議長から、委員会活動の評価や次期委員会への引継ぎ事項も含め議会活動計画の実施状況を報告し、今後の対応方針を決定する。

4 次期委員会への引継ぎ

5月（予定） 委員長会議

議長から次期委員長に、代表者会議で決定した対応方針とともに前期の委員会活動の評価を引き継ぐ。

特別委員会活動チェックシート

このチェックシートは、「三重県議会議会活動計画」に基づき、特別委員会活動について自己評価を行うものです。
 「基本方針」を踏まえて、特別委員会活動を振り返り、それぞれの「評価対象項目」について、「取組の方向」や「評価の視点」を参考にして、委員(理事)の皆さんで自己評価(5段階評価)を行ってください。(但し、該当のない項目は評価しませんので、当該項目の評価欄には「-」をつけてください。)

【チェックシートを記入するにあたっての注意事項】

<p>■点数の基準</p>	<p>○委員個人の評価とします。</p> <p>○基準となる点数は「3点」とします。</p> <p>1点・・・「ほとんどできなかった」「不満足」</p> <p>2点・・・「あまりできなかった」「例年よりもできなかった」「やや不満足」</p> <p>3点・・・「通常どおりできた」「例年どおりできた」「普通」</p> <p>4点・・・「通常よりも良くできた」「例年よりも良くできた」「概ね満足」</p> <p>5点・・・「ほぼ完璧にできた」「十分満足」</p>
<p>■評価できない項目 (該当なし「-」)</p>	<p>○チェックシートを記入する前に、委員間で協議を行い、評価項目に含めるか否か(「-」とするか否か)を委員会として決めます。</p>

特別委員会活動チェックシート

委員会名(豊かで美しい三重の海づくり調査特別委員会)

○基本方針 ～住民本位の政策決定と政策監視・評価の推進～ 議会の本来の機能である政策決定並びに知事等の事務の執行について監視及び評価を行います。

番号	評価対象取組	取組の方向	評価の視点	評価	自由記載(評価点の理由や気づいた点)
1	委員会審議の活性化	議事機関としての議会の機能を十分発揮するため、議員相互間の討議を積極的に行うよう努めます。 また、効率的かつ効果的な委員会の運営を図るため、委員長会議の開催をはじめとした委員会間の情報共有・調整及び連合審査会の活用に努めます。	議員間討議の機会は十分に確保されていなかったか。 議員間討議の機会を十分に活用しなかったか。 議員間討議を通じて合意形成を図るよう努めなかったか。		
2	(年間)活動計画	効率的かつ効果的な委員会の運営を図るため、(年間)活動スケジュール、重点調査項目、県内外調査等の予定について定める(年間)活動計画を策定します。	(年間)活動計画の策定に当たって、委員会で十分に議論を行いましたか。 (年間)活動計画の内容は適切なものでしたか。 (年間)活動計画に沿って委員会活動を行いましたか。		
3	重点調査項目	委員会の所管事項を調査・検討するにあたり、年間を通じて特に調査を行っていく必要がある事項を「重点調査項目」として(年間)活動計画で定めます。	重点調査項目の設定に当たって、委員会で十分に議論を行いましたか。 重点調査項目の内容は適切なものでしたか。 重点調査項目について十分な調査・審査を行いましたか。		
4	県内外調査	「重点調査項目」を中心として、所管事項について調査するための県内外調査の予定を(年間)活動計画で定めます。	県内外調査の調査先は適切でしたか。 調査先で十分な調査を実施しましたか。 県内外調査における内容をその後の調査・審査に活用しましたか。		

○基本方針 ～開かれた議会運営の実現～ 議会活動を県民に対して説明する責務を有することに鑑み、積極的に情報の公開を図るとともに、県民が参画しやすい開かれた議会運営を行います。

番号	評価対象取組	取組の方向	評価の視点	評価	自由記載(評価点の理由や気づいた点)
1	参考人制度等の活用	県政の重要な案件又は県民の利害に関わる重要な案件の調査・審査に当たっては、専門的知識を有する者のほか、利害関係者や県民の意見を反映させるため、必要に応じて参考人の招致や公聴会の開催を行います。	必要に応じて、参考人招致や公聴会の実施について協議を行いましたか。 参考人招致や公聴会における意見をその後の調査・審査に活用しましたか。		
2	請願への対応	受理した請願については、主として所管の委員会において、誠実かつ慎重に審査を行います。また、採択した請願については、必要に応じて、知事等に対しその処理の経過及び結果の報告を求めるほか、国等に対し意見書を提出するなど、議会として願意の実現に向けた取組を行います。	請願審査は適切な方法で実施しましたか(執行部からの意見聴取や紹介議員の出席要求、請願者の参考人招致など)。 採択した請願の願意の実現に向けて、具体的な取組を行いましたか。(知事等に対する経過報告等の要求、知事等への申し入れ、意見書の提出など)		

特別委員会活動実績書（案）

豊かで美しい三重の海づくり調査特別委員会特別委員会（令和7年5月～令和8年3月）

令和8年3月17日現在

1 所管調査事項

海洋環境の変化など本県を取り巻く厳しい状況を踏まえ、全国豊かな海づくり大会の開催を契機として、豊かで美しい三重の海づくりの推進について調査すること。

2 重点調査項目

- (1) 伊勢湾の水質総量規制の在り方及び三重県沿岸の水質の在り方について
- (2) 三重県沿岸海域における漁場づくりについて
- (3) 海業の振興支援を含めた観光資源としての海域の活用方策について
- (4) 豊かな海づくりに資する森林の適切な管理の在り方について

3 活動計画表

重点調査項目	令和7年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和8年 1月	2月	3月
(1) 伊勢湾の水質総量規制の在り方及び三重県沿岸の水質の在り方について (2) 三重県沿岸海域における漁場づくりについて (3) 海業の振興支援を含めた観光資源としての海域の活用方策について (4) 豊かな海づくりに資する森林の適切な管理の在り方について	委員会設置 委員会 重点調査項目、年間活動計画 (5/29)	委員会 執行部からの聴取調査 (6/25)	委員会 参考人招致等 (7/8, 15)	委員会 参考人招致等 (8/12) 県外調査 (8/21～8/22) 県内調査 (8/25)	委員会 参考人招致、委員会活動の振り返り (9/19)	委員会 執行部からの聴取調査 (10/22)	委員会 参考人招致等 (11/18)	委員会 参考人招致、委員間討議等 (12/17, 19)	委員会 参考人招致、委員間討議等 (1/19)	委員会 委員間討議 (2/10)	委員会 委員間討議 (3/17) 委員長報告 知事提言 (3/23)
執行部の主な予定		令和7年版 県政レポート（案）				一般会計・特別会計決算 令和8年度行政展開方針 （案） 当初予算編成に向けての 基本的な考え方		当初予算要求 状況		当初予算案	令和8年度 行政展開方針

4 県内外調査について

(1) 県内調査

8月25日（月）（日帰り） 三倍体カキ・青さのり養殖、水産資源のブランド化等（鳥羽磯部漁業協同組合）、黒のりの色落ち被害対策としての貧栄養対策（施肥）の取組等（三重県漁業協同組合連合会・伊勢湾漁業協同組合）、地域と連携した里海づくりの取組（三重大学水産実験所・一般社団法人相差海女文化運営協議会）等について調査を行った。

(2) 県外調査

8月21日（木）～8月22日（金）（1泊2日）
豊かな海づくりの取組（兵庫県漁業協同組合連合会）、条例に基づく栄養塩類の海域濃度設定、栄養塩類管理計画の運用及び豊かな海づくり大会を契機とした取組（兵庫県）、あいおい播磨灘の里海づくり活動（相生市）、阪南市における地域と連携した磯焼け対策と海洋教育の取組（特定非営利活動法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター）等について調査を行った。

豊かで美しい三重の海づくり調査特別委員会 参考人一覧

令和7年7月8日

- 三重県漁業協同組合連合会 常務理事 植地 基方 氏
・水産業に係る現状や課題等について

令和7年7月15日

- 環境省 水・大気環境局
環境管理課 環境管理調整官 泉 知行 氏
海洋環境課 海域環境管理室長 西川 絢子 氏
・環境基準の水域類型の指定及び第10次水質総量削減に係る議論等について
- 四日市大学 環境情報学部 客員教授 千葉 賢 氏 ※オンライン
・豊かで美しい海づくりに係る現状や今後の課題等について

令和7年8月12日

- 公国立大学法人三重大学 大学院生物資源学研究科
附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター
附帯施設水産実験所 教授 松田 浩一 氏
・磯焼けの原因と対策等について

令和7年9月19日

- 京都大学 名誉教授 山下 洋 氏
・森里海連環学について

令和7年11月18日

- 熊本県立大学 特別教授 島谷 幸宏 氏 ※オンライン
・豊かで美しい海づくりに資する河川づくりについて

令和7年12月17日

- 水産庁計画・海業政策課 海業振興室長 染川 洋 氏
・海業の振興について

令和8年1月19日

■福井県立大学 海洋生物資源学部 教授 杉本 亮 氏

・豊かな海づくりに資する海底湧水の保全の取組について

請願への対応

資料6

定例会会議	受理番号	請願	委員会審査		本会議		処理経過 報告要求	請願に係る 意見書
			審査結果	審査日	採決の結果	採決日		
令和7年11月	請53号	豊かな伊勢湾に向けた取り組みに関することについて	採択	R7.12.17	採択	R7.12.22	—	あり